

事業内容：防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業
 学校防災アドバイザー活用事業の実施

題 名：命の大切さを考える防災教育公開事業（地震と津波）
 －地震と津波・地域ぐるみで防災を－

所属・電話番号：千葉県立九十九里高等学校・0475-76-2256

校 長 田 中 賢 司

1 実施事業

(1) 防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業

(2) 学校防災アドバイザー活用事業の実施

2 事業概要

生徒一人一人に、防災に係る知識や技能を習得させ、自助・共助の意識の下、的確な判断と行動がとれるよう、実践的な防災教育を推進する。さらに、地域に貢献できる人材育成を目指す。

また、ミニ集会を核として、地域住民や関係諸機関とのネットワークを構築する。

3 実施概要

実施時期	計 画 事 項	参加者
5 月	○緊急連絡手段（メール）の整備 ○降下訓練	学校・保護者 学校
6 月	○第1回担当者連絡会議 ○一日赤十字体験	連絡会議構成員 学校・日本赤十字社千葉支部
7 月	○AED講習会 ○津波に関するアンケート（第1回） ○備蓄食料試食	学校・日本赤十字社千葉支部 学校 学校
9 月	○避難訓練（地震） ○第1回講演会	学校 学校・銚子地方気象台

10 月	○PTA防災研修	PTA
11 月	○合同避難訓練 ○第2回講演会	学校・九十九里町 学校・いいおか復興プロジェクト
	○ミニ集会（テーマは津波防災） ○防災教育公開LHR	学校・保護者・地域住民・九十九里町・公共機関 幼・小・中・高校
12 月	○避難訓練（火災） ○避難訓練（津波） ○津波に関するアンケート（第2回）	学校・防災技術センター 学校 学校

4 担当者連絡会議

	氏名	所属及び役職
1	梅津 清治	県教育庁教育振興部学校安全保健課指導主事
2	長野 正己	九十九里町総務課長
3	古川 儀行	県山武地域振興事務所次長
4	川野 宏	町立九十九里中学校長
5	鈴木 英雄	本校開かれた学校づくり委員長
6	錦見 正治	本校PTA会長
7	田中 賢司	本校校長
8	中村 道代	本校教頭
9	葛生 久雄	本校事務長
10	六川 俊	本校教諭

5 具体的な取組

(1) 生徒対象の講演会・授業等

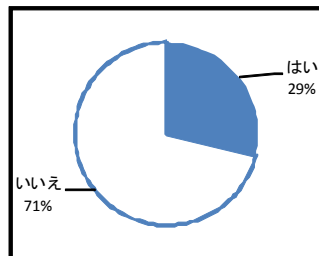
① 防災アンケート第1回

(平成25年7月17日実施)

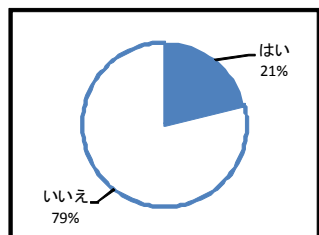
生徒の防災に対する意識の実態把握のために、生徒対象にアンケートを行った。

質問項目及び集計結果抜粋

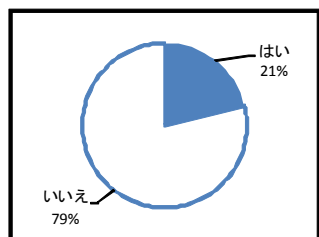
ア あなたの家では、地震・津波などに備えて何か準備をしていますか。



イ 本校入学時に、備蓄品を購入していることを知っていますか。



ウ 本校の備蓄品はどこに保管されているか知っていますか。



② 備蓄品の確認・非常食試食 LHR

(平成25年7月17日実施)

アンケートでの認知度が低かった非常時の備蓄品の保管場所と備蓄品の中身の確認を行った。また、乾パンと缶詰パンの試食をした。生徒の感想は「思ったよりおいしかった」「まずかった」と様々であった。

③ 第1回防災講演会

(平成25年9月5日実施)

講師 銚子地方気象台防災業務課
福田 信夫 氏

演題 「地震・津波に備える」



地震想定避難訓練を行った後に体育館にて実施した。地震が起きるメカニズムについて、及び津波の発生の原理についての講演であった。生徒は、興味深く聞いていた。また、同日、防災に対する意識の問題点の共有化のために、第1回アンケートの集計結果報告を実施した。

④ 第2回防災講演会及び九十九里高等学校ミニ集会

(平成25年11月21日実施)

講師 千葉科学大学危機管理学部
教授 船倉 武夫 氏

いいおか津波復興プロジェクト
語り部 小野 芳子 氏
小野 正和 氏

演題 「地域発の防災

旭 いいおか津波から学ぶ」



第2回講演会は、東日本大震災で実際に被災された小野さん親子による体験談と、津波の際の避難行動についての内容であった。「実際に震災被害に遭われた方の体験

談が非常に印象深い」と多くの生徒が述べていた。

また、この講演会は地域住民の方々にも公開され、講演会後はミニ集会被催された。



ミニ集会被には本校職員・PTA役員の他に九十九里町職員、九十九里町片貝地区区長、東金警察署職員、山武市広域行政組合消防署職員、九十九里郵便局職員、九十九里町社会福祉協議会職員等が参加し、災害時の本校の役割などについて意見を交わした。

⑤防災教育公開 LHR

(平成 25 年 11 月 28 日実施)

津波という災害の恐ろしさといのちの大切さを考え、自助・共助の意識を高めることを目的とし、東日本大震災で被災した家族の体験談を教材として全校一斉の公開 LHR を実施した。



1 学年は読み物教材として、「いつまでも繋がらない母の携帯電話」を用い、自分や他の生徒の意見をクラス内で共有しあった。

1 学年は読み物教材として、「いつまでも繋がらない母の携帯電話」を用い、自分や他の生徒の意見をクラス内で共有しあった。



2、3 学年は、「がんばるぞ俺達家族」を読み物教材として用いた。グループ学習を中心に授業に取り組み、積極的に意見を交換した。

2、3 学年は、「がんばるぞ俺達家族」を読み物教材として用いた。グループ学習を中心に授業に取り組み、積極的に意見を交換した。

(2) 生徒対象の避難訓練

①降下訓練 (1 学年対象)

(平成 25 年 5 月 27 日実施)

- ・非常用降下装置を使用しての降下体験

②地震想定避難訓練

(平成 25 年 9 月 5 日実施)

- ・津波の心配のない地震を想定し、机の下に一次避難後、体育館に二次避難

③火災想定避難訓練

(平成 25 年 12 月 2 日実施)

- ・管理棟 1 階より出火の火災を想定し、校庭に避難後、模擬初期消火訓練を実施



④地震・津波想定避難訓練

(平成 25 年 12 月 17 日実施)

- ・大津波警報発令を想定し、生徒棟校舎屋上に避難



本校では初めてとなる津波想定屋上への避難訓練であった。「屋上の高さを知ったことで、大津波の大きさや怖さがよくわかった」などの意見が得られ、生徒にとって印象に残る訓練となった。

(3) その他の活動

① 一日赤十字体験

(平成 25 年 6 月 23 日実施)

対象 生徒会役員 6 名・本校職員

内容 高齢者体験

車いす介助体験

災害用移動炊飯器設置訓練

救急法訓練



② AED 講習会

(平成 25 年 7 月 4 日実施)

対象 保健委員 48 名・本校職員



③ 起震車体験

(平成 25 年 9 月 11 日実施)

対象 代表生徒 28 名・本校職員



④ 九十九里町合同防災訓練

(平成 25 年 11 月 17 日実施)

対象 代表生徒 27 名・本校職員

内容 避難者受付

避難者誘導

仮設トイレ設置補助

炊き出し等補助



九十九里町にて実施された地域の合同防災訓練にボランティアとして参加した。最も印象に残っている訓練としてこの避難訓練を挙げる参加生徒も多かった。慣れない訓練に戸惑いつつも、生徒は積極的に取り組んでいた。実施後の感想には、「災害時に自分達が地域のためにできることが具体的にわかり、自信がいった。」「炊き出しの補助が楽しく、やりがいがあった。また機会があれば是非参加したい」などといった前向きなものが多く、参加した生徒達にとって有益な体験となった。

(4) 職員対象の研修等

- ①校内危機管理マニュアルの点検・見直しと周知
- ②九十九里町立九十九里小学校 避難訓練参観
(平成 25 年 5 月 31 日実施)
- ③九十九里町立九十九里小学校 防災講演会参観
(平成 25 年 6 月 22 日実施)
- ④第 1 回防災担当者会議
(平成 25 年 6 月 27 日実施)
- ⑤千葉県立銚子高等学校公開授業参観
(平成 25 年 8 月 11 日実施)
- ⑥「防災教育を考える」シンポジウム in 千葉 参加
(平成 25 年 10 月 5 日実施)
- ⑦ PTA 研修会
(平成 25 年 10 月 19 日実施)



千葉科学大学にて、生徒対象第 2 回講演会の講師である船倉氏による講義を取り入れた PTA 研修会を実施した。

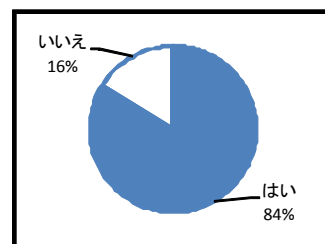
- ⑧白子町立南白亀小学校避難訓練参観
(平成 25 年 10 月 27 日実施)
- ⑨千葉県立銚子高等学校公開 LHR 参観
(平成 25 年 11 月 12 日実施)

6 成果と今後の課題

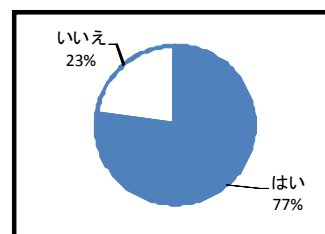
(1) 第 2 回アンケートの集計結果

本事業における取組の成果と今後の課題を明確化するため、平成 25 年 12 月 17 日に、生徒を対象とした第 2 回アンケートを実施した。

①あなたの身の回りでは、地震や津波の心配があると思いますか



②今年度の防災教育を受けて、あなたの防災に対する考え方は深まりましたか



①の結果から、災害に対する知識を身につけ、災害を身近な問題としてとらえている生徒が全体の 8 割以上を占めていることがわかる。

また、②の質問では、77 % の生徒が今年度の取組をとおして考えを深めたと答えている。「はい」と答えた具体的な理由は以下のとおりである。

- ・防災に対する意識が高くなった (121)
- ・具体的にどう行動するかわかった (12)
- ・家族と話し合うようになった (7)
- ・知識が身についた (7)
- ・家で備蓄品を購入した (4)
- ・命の大切さがわかった (4)
- ・無断欠席はしてはいけないと思った (1)
- ・自分から行動しようと思った (1)

(人数)

一方、②の質問で「いいえ」と答えた具体的な理由は以下のようなものであった。

- ・実際に体験しないとわからない (19)
 - ・意識が低い・興味をもてない (15)
 - ・もっと知識が欲しい (8)
 - ・もっと訓練が必要 (2)
 - ・もともとよく考えている (1)
- (人数)

また、「災害時に高校生としてどのようなことができるか」という質問に対しては、「自分ができるボランティア活動をする」と答えた生徒が 61 名、「年配の方や子供などを助けたい」と答えた生徒が 68 名、「地域住民と助け合い、協力する」と答えた生徒が 50 名という結果であった。少数ではあるが、「率先して行動する」、「自分がリーダーシップをとる」、「周りを明るくする」という回答もあった。しかし、「わからない」と答えた生徒、無回答の生徒も多数存在した。

最後に、「今後どのような防災教育を受けたいか」という質問では以下のような回答が得られた。

- ・地震についてもっと知りたい
- ・火災についてもっと知りたい
- ・AED・応急処置に関して詳しく知りたい
- ・ハザードマップに関する授業を受けたい
- ・不審者侵入の訓練がしたい
- ・避難誘導について詳しく知りたい
- ・体験的な授業を受けたい
- ・合同防災訓練にまた参加したい

(2) 集計結果からみる成果と課題

①今年度の取組の成果

- ア 多くの生徒の防災意識を高め、災害発生時に必要な知識を習得させることができた。
- イ 避難訓練や講演会をとおして、災害時に適切な行動をとる技能を身につけさせることができた。
- ウ 多くの生徒に、災害時に率先して周りを助ける共助の意識をもたせることができた。
- エ 地域の防災訓練への参加や関係各所とのやりとりを通じて、災害時における地域とのネットワークを構築することができた。
- オ 防災教育を通じて、生徒自身だけでなく、家庭にもはたらきかけることができた。

②来年度以降の課題

- ア 防災に対して関心が低い生徒への意識付けをさらに工夫すること。
- イ 習得した知識を忘れさせない継続的な指導を行うことと、生徒が主体的に考え、行動できる指導を行うこと。
- ウ 生徒が自分のこととして捉えることができる体験的な学習を充実させること。
- エ 防災に限らず、地域の中で高校生として自立し、責任ある行動がとれるよう、意識付けをすること。